

浜中図書館だより

2020 5月 7日発行

浜寺中学校図書館 大岡

浜中生の皆さん、お元気ですか？ 緊急事態宣言の延長が決まり、5月末までも不自由な生活を願うこととなりましたが、休校中の体調の方はどうですか？気分が晴れない…という人がほとんどでしょう。何をすることもなく、スマホやテレビの画面をずーっと見入ったり、ぼんやりと時間だけが過ぎてしまい、あっという間に一日が過ぎていったという人もいるでしょう。

そんな人たちにお勧めしたいのは……毎日の生活の中に**読書の時間**を入れてみよう！

ということです。もうちゃんと入っているよーっという声も聞こえてきそうですが。

何分間か時間を決めてでもいいし、一日に何ページ以上を読む…とか、なんでもあり！自由です。

活字を読むことは、脳を活性化します。イライラする気持ちを鎮めることにもなります。体は家の中でも、心は自由に時空を飛び越えていくことができます。体験したことのない冒険が出来ます。

当たり前とっていたことが、当たり前ではなかったことに気づかされる日々です。そして人間の感受性が、今こそ試される時でもあります。

同じことがらでも、人によって悲観的に捉えたり、楽観的に捉えたりと、全く違う受け止め方になってしまうように、その人の考え方の幅を広げることが、読書によって培われるのだと思います。視野が広がって「あー、そんな考え方もあるんだ」「同じようにやってみたい！」とか。

あれこれ思い悩むより、まず本を手にとって、ページを開いてみましょう。今の時期は、手元に本がなければ新しい教科書を読んでもいいですね。最後まで読んでしまってもOK！全然構いません。後日、皆さんに図書カードをお渡しします。これもうまく活用してみてくださいね。堺市の公共図書館も現在は5月末まで閉館中ですが、出かけなくても電子図書館としてパソコンやスマホで、テキストが読めたりします。試してみましょう。

何よりも、当たり前にある学校生活、浜中図書館へ早く皆さんが帰ってきてくれる日を楽しみに待っていますよ。何よりも体も心もお元気で！今こそ自律の時期です。

📖 今月のお薦め本～オオオカセレクト

1 「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」 ブレイディみかこ

中学生の息子さんが、イギリスの公立中学校で体験したことを、それも人種差別やLGBTQの問題を母の目からさりりと取り上げてくれている。日本の中学校ではまだ出来ていない、びっくりするぐらい自分の考え方をハッキリと伝えてくれる彼の姿が、小気味よくなって超カッコいい！

これは、何度か改めて読み返したいと思った何冊かのベスト本。

2 「線は、僕を描く」 砥上裕将

文章を読んでいて、音楽が聞こえるようだった本が「蜜蜂と遠雷」恩田陸の作品であれば、これは、瑞々しい水墨画の作品が、文章から浮かび上がってくるようである。普段水墨画と縁のない世界を見せてくれるの同時に、芸術の世界の精神性を伝えてくれる師匠の言葉が素晴らしい。言葉の一つひとつが人間の生き方にもつながっていくように迫る。名作だ！

3 「medium 霊媒探偵城塚翡翠」 相沢沙呼

「すべてが、伏線。」という帯の言葉が、私を捉えて離さなかった本。というより、そのわくわく感を持ち続けたいために、まだ読まずに皆さんに紹介しようという不敵なオオオカ。

2年生には「最後のトリック」という本をビブリアバトルで紹介してから、こういう本の読み方（正しくは積んどく本）があってもいいという紹介でもある。すべてが伏線だったあ～と読んだ人と話をしたい と願って紹介。読んだ人、声かけしてくださいね。

ではでは、皆さん、今日はこのへんで。あー本が読みたくなってきた～！！上の本は全て購入本です。浜中図書館でみんなを待ってます。

図書館でまたお会いしましょう！！